

令和6年度
広島県瀬戸内高等学校推薦入学試験問題

国語

(50 分)

..... 注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、この冊子を開いて見ないこと。
2. 解答は必ず解答用紙の指定された箇所に記入すること。
3. 問題・解答用紙に落丁、乱丁、印刷不明な箇所があれば申し出ること。
4. 問題・解答用紙の指定欄の太枠内に、受験番号を忘れずに記入すること。
5. 問題・答案は試験終了後、監督員の指示によって回収するので、終了の合図までそのまま静かに着席していること。
6. 余白は自由に使って良い。

受験
番号

--

【一】次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

ゴリラやチンパンジーは、状況や感情に応じてさまざまな鳴き声を上げますが、そうした声は言語に相当するものではなく、人間でいえばとっさの叫び声に相当するものと考えるのが妥当^{だとう}です。

人間も、言語を話す以外にさまざまな声を出します。驚いたときには「わっ」と、痛いときには「ぎゃっ」と叫びます。楽しいときには「わっはっは」、悲しいときには「うえーん」といった声が出てしまいます。こうした声は人類^aで^aあり、私たちはまったく異なる文化圏の人たちの叫び声を聞いて、かれらが驚いているのか痛いのか、楽しいのか悲しいのかを正確に読み取ることができます。しかしもちろん、そうした声を上げている本人は、他人に自分の感情を伝えることを意図してわざわざ声を上げているわけではありません。①そうした声は自然に出てしまうのです。むしろそうした声を意図的に抑えることは困難です。

テレビの動物番組などで、「動物の言語」と称するものが紹介されることがあります。たとえば、アフリカのサバンナに住むベルベツトモンキーというサルには、三種類の天敵がいます。ヒヨウとワシとヘビです。ベルベツトモンキーは、それぞれの敵に対応した三種類の叫び声を鳴き分けるそうです。ヒヨウを見た個体が叫ぶと、他の個体はそれを聞いて地上をケイカイしながら木の枝の先の細いところに逃げます。ワシを見た個体の叫び声を聞いた場合は、空を見上げながら木の葉の茂ったところに隠れます。ヘビの場合は、二本足で立ちあがってあたりを見回します。

こうした行動を人間が観察すると、ベルベツトモンキーが「ヒヨウだー」「ワシだー」「ヘビだー」などと、仲間に言葉で伝えているように思うかもしれません。しかし、かれらの叫び声を人間の言葉と同じようなものと考えるのは誤りです。なぜかというところ、そうした声は状況に対応して自然に出てしまうものだからです。ヒヨウを見たベルベツトモンキーは叫ばずにはられません。そうした声は、人間でいえば驚いたときに出る叫び声に相当するのです。「i」

それに対して、人間の言語の著しい特徴は、言葉の指示する対象がその場になくとも発せられることです。《人間は、ヒヨウがいなくとも「ヒヨウ」と言うことができます。それだけではありません。それを聞いた他の人間は、「この人はヒヨウに驚いて叫んだのではなく、ヒヨウについて何か語りたんだ」と理解します。「ii」

これは、ベルベツトモンキーにはできないことです。かれらは、ヒヨウがいなくともヒヨウに対応する叫び声を発することはありません。また、たとえそうしたとしても、仲間から「やつはヒヨウについて語りたから声を出しているんだ」と理解してもらえないでしょう。仲間はヒヨウがいると思って逃げただけです。それを何度か繰り返しているうちに理解してもらえないこともありません。

ヒヨウがないときに叫ぶ個体は信用を失い、その個体が叫んでも誰も逃げなくなるだけでしよう。(中略)

私たちは子どもに言葉を教えるときに、たとえば、リンゴを見せて「これはリンゴだよ」と教えます。ただそれだけのことで子どもたちが言葉を学ぶことができるのは、^Iかれらが私のその行為を見て、私がリンゴを見つけて叫んでいるのではなく、この物体の名前を伝えようとしているのだと理解するからです。

こうした理解は伝達行動がなされるための前提ですから、伝達して教えることはできません。³子どもたちは何とかして自力で気づくしかない。論理的に考えれば、これは非常に困難な課題です。にもかかわらず、子どもたちは全員が、ほとんど迷うこともなく、そうした理解を達成します。「iii」

他方、チンパンジーであれその他の動物であれ、⁴私がかれらにリンゴを示して「リンゴ」と言ったぐらいのことでは決して言語を学びません。かれらは、「リンゴ」という声を出す私がいっただけの何のためにそんなことをしているのか理解できないのです。

チンパンジーなど群れで暮らす多くの動物は、他の個体の感情や行動の意図を^dタクみに読み取ります。それはかれらが、仲間も自分と同じような感情を持ち、同じような意図にもとづいて行動することを(おそらくは⁵生得的に)知っているからです。「iv」
ところが、かれらが行う行動のレパートリーのなかには伝達行動というものは含まれていません。かれらには、伝達行動を動機づけるための、自分の感情や意図を仲間に伝達したいという感情や欲求がありません。そのため、私が「リンゴ」という声を出していることが伝達行動であるということは、^{II}かれらには想像もできないのです。

(山口裕之著 『みんな違ってみんないい』のか? 相対主義と普遍主義の問題』を一部改題)

※ 生得的 — 性質や能力などが生まれながらに備わっているさま。

問一 { } a ~ d のカタカナを漢字に、漢字は読みをひらがなにそれぞれ直して書きなさい。

問二 [] に補うべき語として最も適当なものを次のア ~ エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 普遍的 イ 圧倒的 ウ 意図的 エ 基本的

問三 《 》 に補うべき語として最も適当なものを次のア ~ エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア つまり イ たとえば ウ また エ そして

問四 次の一文を補うのに最も適当な箇所を文章中の「i」「iv」の中から選び、その記号を書きなさい。

他者の行動は、自分も行うものである限りにおいて、それが何のための行動であるかが理解できます。

問五

——①「そうした声」とありますが、どのような声ですか。その内容が具体的に書かれている一続きの二文を文章中から抜き出し、最初と最後の五字を書きなさい。

問六

——②「ベルベットモンキーが『ヒョウだ！』『ワシだ！』『ヘビだ！』などと、仲間に言葉で伝えているように思うかもしれませんが、なぜ人間はこのように思うのですか。その理由として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア ベルベットモンキーが三種類の天敵を危険視している様子を見て、動物たちは三種類の叫び声を言葉として鳴き分けてい
ると思うから。

イ ベルベットモンキーが三種類の天敵に直面して逃げている様子を見て、仲間が安全な場所に逃げやすいように知らせてい
ると思うから。

ウ ベルベットモンキーが天敵ごとに声を鳴き分けて行動を変える様子を見て、天敵から逃げるための手段を考えることは人
間と同じだと思うから。

エ ベルベットモンキーが天敵に出くわすとすぐに声を鳴き分けて伝えている様子を見て、状況に応じた言葉の使い分けをし
て伝達していると思うから。

問七

——③「子どもたちは何とかして自力で気づくしかない。」とありますが、どのようなことに気づくしかないのですか。解答欄
に合うように文章中から十五字で抜き出して書きなさい。

他の個体が自分たちに（十五字）こと。

問八

——④「私がかれらにリングを示して『リング』と言ったぐらいのことでは決して言語を学びません」とありますが、なぜチ
ンパンジーや他の動物が言語を学ばないのですか。その理由として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書き
なさい。

ア 人間の発する声が、動物との信頼関係を築くための伝達行動だと理解できないから。

イ 人間の発する声が、状況に合わせた指示をするための伝達行動だと理解できないから。

ウ 人間の発する声が、物体の名前を伝達するための行動だと理解できないから。

エ 人間の発する声が、感情や意図を伝達するための行動だと理解できないから。

問九

——⑤「かれらが行う行動のレパートリー」とありますが、これはどういうことですか。その説明として最も適当なものを次

のア、エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 自分の状況や感情を教えるために、相手と行動の意図を共有しようとする事。

イ ある物体の名前を聞くと、それがその物体を指す言葉だと認識すること。

ウ 自分の感情や意図を天敵に知られないように、できるだけ自然な形で声を抑える事。

エ 群れで共に暮らすものが、感情や意図を互いに感じ取りながら行動すること。

問十
―― I・IIの「かれら」とありますが、これはそれぞれ何を指していますか。最も適当なものを次のア、エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア I・IIは両方とも「人間の子どもたち」を指している。

イ I・IIは両方とも「チンパンジーなど群れで暮らす動物」を指している。

ウ Iは「人間の子どもたち」を、IIは「チンパンジーなど群れで暮らす動物」を指している。

エ Iは「チンパンジーなど群れで暮らす動物」を、IIは「人間の子どもたち」を指している。

問十一
文章の内容と合致するものを次のア、オの中から二つ選び、その記号を書きなさい。

ア ベルベットモンキーは天敵を見つけて叫んだ場合、それを聞いた他の個体は天敵が来たと判断して逃げだす。

イ チンパンジーや他の動物は伝達行動を学ぶことによって、他の人間から与えられた課題を解決する。

ウ 人間はベルベットモンキーや他の動物の言語から、彼らの行動の意図を正確に読み取ることができる。

エ 人間はヒヨウという対象が目前にいなくてもそれについての話をし、他の人間に伝えることができる。

オ 人間の子どもは大人から伝達行動について教えてもらった場合、目の前にある対象のことを学ぼうとする。

【二】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「言葉の最初の音がつかえてうまく話すことができない」「少年（シラ）」は野球部に所属し、友人の「マサ」達と中学一年生の頃から共に練習に励んできた。しかし、中学三年の六月に転校してきたばかりですぐにレギュラーに選ばれた「大野」をめぐる、野球部には異様な空気が流れている。

中学に入学するときに引越してきて、三年目になる。一つの町にこんなに長く住んだのは初めてだ。まだみんなが学校に慣れる前に移ってきたおかげで、転校生として目立たずにすんだ。いまでは「うそお、シラって小学校の頃はおらんかったんか？」と意外そうに言われることも多い。

この町で過ごす夏は、三度目。梅雨明け直後の、ちょうどいまの時季のうだるような暑さは、おとしと去年の経験から覚悟していた。夕立の雨雲はどの方角から広がるのかも覚えたとし、秋が深まると山がどんなふうの色づいていくかも、だいたい見当がつく。

思い出もたくさんある。マサとトレパン時代——一年生の頃のことを話すのだって、あいつにはあたりまえのことかもしれないが、少年にとつては、ちよつと感激する出来事だったのだ。

野球部は、運動部の中でいちはん上下関係のけじめが厳しい。一年生は基本的に球^aヒロいと声出しだけで、二年生は守備とトスバッティングだけ。バットを思いきり振れるのは、三年生が引退してからだ。服装や用具も、伝^bトウできつちり決まっている。三年生が現役するとき、一年生は体育の授業で使うジャージの上着に、白いトレパン、ズック。グローブは自分のを持ってきていいが、バットは触れない。三年生が引退するとトレパンのまま、スパイクだけ履ける。二年生になるとユニフォームを着ることができが、アンダーシャツの袖とストッキングはどちらも白で、白い帽子に学校名の頭文字の「K」のワッペンを貼ることはできない。三年生が引退して、十月の新人戦に向けて練習をするときになって、やっと帽子にワッペンが付き、アンダーシャツとストッキングが黒になる。

無意味で、古くさい伝³トウだ。でも、トレパン時代からスゴロクのマスを進むように二年半近くを過²ごしてきたいまは、そういう無意味な古くさが、とても大切なことのように思えてくる。

わしら、みんな、トレパンの頃から一緒にやってきた——。

マサの言うことは、わかる。

「わしら」の中に自分も含まれているのが、少し嬉しくもある。

でも、野球は実力の世界、なのだ。

大野もマサもちゃんとわかっているはず、なのだ。

少年が「じつ、じつ、じつ……」とつつかえただけで「実力」と聞き取った、それがなによりの証拠だった。

土曜日の午後、部室の雰囲気は最悪だった。

ユニフォームに着替えながら、「あーあ」と三好が大げさなため息をつく。「マサもかわいそうじゃのう、せつかく一年生の頃⁵からがん

ばつとつたののう」

「ほんま、ほんま」と芝居がかった相槌を打つのは、篠原。二人ともマサとは小学校のスポーツ少年団時代からの付き合いだ。

「わし、転校しようかのう……」

マサがおどけて、泣き真似をした。三好と篠原は目配せしながら声をあげて笑い、他の連中も、言葉には出さなくても気持ちとは同じなのだろう、大野には誰も話しかけない。大野もみんなに背中を向けて、ロッカーに張りつくような窮屈な姿勢で服を着替えていた。

練習試合は夕方から。その前にウォーミングアップを兼ねて、ふだんどおりの練習をすることになっていた。

大野のアンダーシャツは、いつものように白の袖だった。少年はそれを目の端で確かめ、ため息を喉の奥でつぶした。

ユニフォームに着替えたあとも《A》とおしゃべりをするマサたちをよそに、大野は一人で部室を出た。

少年があわてて追いかけてよそすると、三好が「シラちゃん、よそ者の味方するんか？」と不服そうに訊いた。

「……同じ野球部じゃろうが」

「違うわい」篠原がびしゃりと言う。「途中から割り込んできただけじゃ、あんなん」

三好はさらにつづけた。

「わし、試合に負けてもええけん、昔から一緒に練習した者だけでやりたいよ。どげん野球が上手うても、よそ者はよそ者じゃけん」

三好も篠原も、「のう？ シラもそげん思うじゃろう？」と——かつて、よそ者だった少年に訊く。

少年は二人をにらみつけ、同じまなざしをマサにも向けて、《B》と言った。

「上手い者からレギュラーになるんが、あたりまえじゃ」

そのまま、大野を追って外に出た。

大野は三塁ベースの横で、柔軟体操をしていた。前の学校で練習前にやっていたという体操だ。

少年に気づくと、大野は「まいっちゃったな……」と寂しそうに笑った。「なんか、俺、みんなを敵に回しちゃったんだな」

そんなことない——とは言わなかった。

代わりに、「アンダーシャツ、俺のやるけん」と言った。「大野、黒いやつ持っとらんじゃろ」

「試合用はあるよ。昨日、おふくろに買ってきてもらった」

「何枚？」

「一枚だけ。練習用のは、ほら、もうあと一カ月とか二カ月ぐらいいしからないから、もつたないじゃない、って言われて……」

神奈川県から転校してきた大野は、テレビの『中学生日記』の登場人物みたいにしやべる。マサたちは、たぶんそれも気に入らないのだろう。

「俺の、やる」少年は言った。「余つとるけん、俺のを一枚やるわ」

「いいよ、そんなの。練習だし、悪いから」

「ええけん、ほんまに余つとるし……いま、持ってきたるんよ。試合の前は、みんな同じ色のシャツにしようや。そのほうが、なんちゅうか、盛り上がるけん」

五月に買ったもらったばかりのシャツだった。六月の大会でそれを着たら、二試合で八打数七安打の大当たりだった。縁起のいい——ほんとうは八月の最後の大会でも着ようと思っていたシャツだ。

大野はまだ少し戸惑っていたが、少年が「のう？」と念を押すと、小さくうなずいた。

(重松 清著 『きよしこ』より)

問一 ｛ a・bと同じ漢字を含むものを、次のア～エの中からそれぞれ選び、その記号を書きなさい。

a 球ヒロい

ア 情報シユウ集 イ シユウ得物 ウ シユウ学旅行 エ シユウ熟度

b 伝トウウ

ア 天下トウ一 イ 一騎トウ千 ウ 悪戦トウ苦 エ 一トウ両断

問二 Ⅱ i・iiの意味として最も適当なものを、次のア～エの中からそれぞれ選び、その記号を書きなさい。

i おどけて

ア あらたまつて イ さまたげて

ウ ばかにして エ ふざけて

ii 不服ソウに

ア 納得ナツがいけない様子で イ いつもと変わらない様子で

ウ 物事がうまくいかない様子で エ 心が落ち着かない様子で

問三 《A》・《B》に補うべき語として最も適当なものを次のア～エの中からそれぞれ選び、その記号を書きなさい。

ア さらり イ きつぱり ウ しぶしぶ エ だらだら

問四 — ①「少年にとっては、ちょっと感激する出来事だった」とありますが、その理由を次のように説明しました。(1)・(2)を文章中からそれぞれ指定された字数で抜き出すことで完成させなさい。

少年は、(1 二十字以内) であり、一年生からの (2 十字以内) から。

問五 — ②「スゴロクのマスを進むように」という表現で使われている表現技法として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 暗喩 イ 直喩 ウ 擬人法 エ 倒置法

問六 — ③「とても大切なことのように思えてくる」とありますが、なぜ大切なことだと思えてくるのですか。その理由として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 古くさいしきたりを守ることで、強い精神力を身につけることができ、野球にいかせるから。

イ 古くさいしきたりだが、みんなで乗り越えて進級していくことで、仲間としての絆が生まれるから。

ウ 古くさいしきたりを守ること、社会のルールを覚えることができ、就職してからも役に立つから。

エ 古くさいしきたりだが、我慢して守り続けることによって、親友を作ることができるから。

問七 — ④「わかっている」とありますが、何をわかっているのですか。解答欄に合うように文章中から十字以内で抜き出して書きなさい。

— ⑤「一年生の頃」を言い換えた語句を文章中から五字程度で抜き出して書きなさい。

問九 — ⑥「大野もみんなに背中を向けて、ロッカーに張りつくような窮屈な姿勢で服を着替えていた。」とありますが、ここから大野のどのような心情がわかりますか。その説明として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 部員たちからの嫌がらせに対する憎しみ。

イ 部員たちに受け入れてもらえないつらさ。

ウ 部員たちのやりとりに対する軽蔑。

エ 部員たちと部室で過ごすことへの嫌悪。

問十 — ⑦「アンダーシャツ、俺のやるけん」とありますが、この言葉に込められた少年の心情を次のように説明しました。(1)・(2)を文章中からそれぞれ指定された字数で抜き出すことで完成させなさい。

自分は大野の (1 一字) でないということ、そして同じ色のアンダーシャツを着ることでみんなと (2 三字) を一つにして試合に臨みたいと願っているということ、大野に伝えたいと思っている。

【三】 次の問いに答えなさい。

問一 (1)～(3)の対義語を次のア～カの中からそれぞれ選び、その記号を書きなさい。

- (1) 具体
- (2) 楽観
- (3) 直接

ア 婉曲 イ 積極 ウ 間接 エ 悲観 オ 抽象 カ 客観

問二 (1)～(4)の□に入る漢字一字をそれぞれ入れて、慣用句を完成させなさい。

- (1) 一事が□事
- (2) 後は野となれ□となれ
- (3) 魚心あれば□心
- (4) 七転び□起き

問三 (1)・(2)のうち、異なる用法で用いられているものが一つあります。次のア～エの中からそれぞれ選び、その記号を書きな

さい。

- (1) ア お腹がいっぱいで食べられない。
- イ 問題にどう対処するのか分らない。
- ウ 人が多くて前に進めない。
- エ よそ見をしながら歩くとあぶない。
- (2) ア 突然声をかけられる。
- イ いきなり先生に褒められる。
- ウ 強烈な眠気に襲われる。
- エ 校長先生が車に乗られる。